

認定看護師の役割機能の主観的評価に関する研究

佐々木雅史¹⁾*, 織井優貴子²⁾

1) 青森県立保健大学健康科学部, 2) 青森県立保健大学健康科学研究科

Key Words ①認定看護師 ②主観的評価 ③質的統合法

I. はじめに

認定看護師制度は 1995 年に発足し、認定看護師は実践、指導、相談の 3 つの役割を果たすとされている。

認定看護分野のひとつである、がん化学療法認定看護師は、平成 18 年に施行された「がん対策基本法」によって、その資格を有することが診療報酬に反映されるようになったことから、自己の役割遂行能力や周囲からの評価が得られやすい状況にあると考える。しかし、がん看護分野の認定看護師の自己評価についての先行研究の結果では、自己評価は決して高いものではなかった(濱口, 2010)。自己評価があがることで認定看護師の活動が促進されると考えられるため、本研究を実施した。

II. 目的

本研究の目的は、がん化学療法看護認定看護師の役割の主観的な評価の特徴を明らかにすることである。

III. 研究方法

1. 研究デザイン：質的統合法
2. 研究期間：2011 年 9 月から 2012 年 3 月である。調査は 2011 年 12 月から 2012 年 2 月に実施した。
3. 調査対象：2011 年 8 月現在、がん化学療法看護認定看護師としての経験 5 年を有し、氏名、所属先の公表を許諾している 84 名のうち、無作為に抽出した 11 名とする。
4. 調査方法：独自に作成したインタビューガイドを基に、半構造化面接を行う。1 人あたりの面接時間は 30～40 分程度とする。得られるデータの正確性の確保のため、研究協力者の同意を得たうえでインタビュー内容を IC レコーダーに録音する。
5. 倫理的配慮：本研究は A 研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

IV. 結果・考察

1. 研究対象者の概要：研究対象の要件を備えたがん化学療法看護認定看護師 11 名に研究協力依頼文書を送ったところ、5 名から回答があり、3 名が研究協力を承諾した。全員が女性である。認定看護師制度では、資格取得後 5 年ごとに資格更新審査をうける必要があるが、3 名全員が 2 回の資格更新審査を済ませていた。資格取得後の経験年数は 10.6 年であった。

2. 調査結果：データ収集は研究対象者の指定する場所に研究者が個々に訪問した。プライバシーが確保できる個室等を確保してもらい、インタビューガイドに従って半構造的面接を行い IC レコーダーに録音した。インタビュー時間は 39 分～67 分で平均 54 分であった。

対象者ごとに作成した逐語録を良く読み、対象者自身が使用している言葉をできるだけ残して要約した。その際、1 つのラベルには 1 つの意味しか取れないように留意しながら 1 文にした。

合わせて 356 枚のラベルが作成された。今回はがん化学療法看護認定看護師が行っている看護実践とその評価について記載する。

今回の調査では、3名全員が、がん化学療法が行われる部署で、がん化学療法を実践していた。

また、薬剤の投与管理だけではなく、副作用の症状マネジメントを実施していた。例えば、がん化学療法に伴う副作用のひとつである口内炎について、あるがん化学療法看護認定看護師は「口腔ケアを患者に指導する。」と語った。その評価指標として、症状の改善のほかに、「患者が自分なりの口腔ケアの方法を見つける過程をみているとやりがいを感じる。」「1 コース目は私たちが援助していたことが、2 コース目には患者が自分自身でできるようになっている。」というように、患者が自分自身で症状をコントロールしようとする姿勢で評価を行っていた。

また、患者ができる限り薬剤投与前と同じような生活を送れるように看護を行っていた。がん化学療法に伴う食欲低下への看護について、「医師に相談し、処方をしてもらう。」「栄養士に相談し、患者が食べる喜びを感じられるような食事を栄養士、患者と一緒に考える。」というような他職種との調整を行っていることが明らかになった。これにより、患者の食事摂取量が増える、あるいは食欲の増進がみられることで評価を行っていた。

V. おわりに

がん化学療法看護認定看護師の看護実践とその主観的評価について、以下の3点が明らかになった。

1. がん化学療法看護認定看護師は、単に薬剤投与時のみの看護実践ではなく、がん化学療法を受ける患者がよりよい生活を送れるような症状マネジメントを実施し、その時には「患者と一緒に考える」という、患者を尊重する姿勢がみられた。
2. がん化学療法看護認定4看護師は、医師、栄養士をはじめとする他職種と連携をとりながら症状マネジメントを行っていた。
3. がん化学療法看護認定看護師は、看護実践を患者の症状の変化のほか、患者の意識の変化で評価していた。

VI. 文献

濱口恵子, 花出正美, 上杉宣江ほか (2010), 平成 18 年がん看護に携わる認定看護師の実態調査報告-3つの役割と看護管理者からの期待-, 日本がん看護学会誌, 24 (3) .

VII. 発表

なし